Unified Logistics

物流情報の統合・可視化・分析を行い、End to End のサプライチェーン全体最適化と課題解決を支援

物流需要の増加が見込まれる一方で、物流業界は労働力不足、輸送力低下、輸送手段の多様化といった課題に直面しています。富士通はロジスティクス情報の標準化サービスを提供し、荷主企業と物流事業者を繋ぐことで、効率性と柔軟性を高め、持続可能なビジネスを支援します。
サプライチェーン全体におけるロジスティクスデータの標準化と蓄積及び可視化を実現し、物流共同化やフジィカルインターネット実現のためのデータ利活用を支援し、お客様のビジネス継続性を高めます。

Unified Logistics ビジョン

Logistics Management System

オファリングの特長

- ロジスティクスデータの標準化・集約・物流KPI可視化による、物流共同化などへのデータ利活用の推進
- 重要なロジスティクスデータである委託先物流コストの自動計算と可視化による委託契約内容の適正化サポート

オファリングの提供価値

- ロジスティクスデータに基づくロジスティクス改革・改善
- サプライチェーンのボトルネックの可視化
- 委託先物流コストの速やかな自動計算、可視化

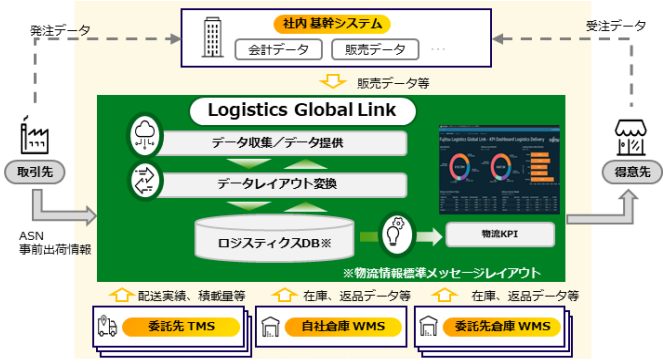
© 2025 Fujitsu Limited

LMSを構成するオファリング

Logistics Global Link

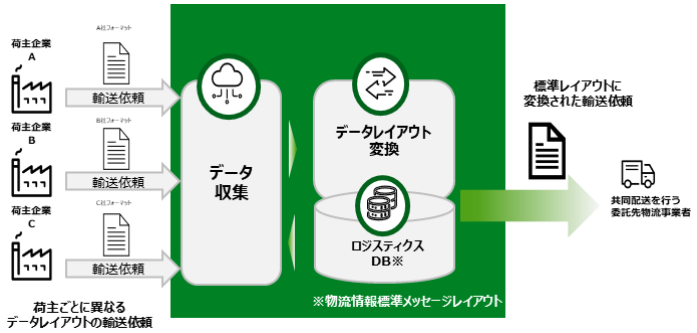
物流関連システムから収集したデータを変換・蓄積するDatahub機能と、可視化・分析を行うKPI機能で、ロジスティクスデータ標準化による様々な利活用をご支援するクラウドサービスです。

ユースケース①　企業内及び物流委託先のデータ収集・分析/企業間データ連携



企業内におけるロジスティクスデータのサイロ化を解消し、物流改善の基盤を整備します。
ロジスティクスデータの標準化・統一化により自社内での分析や他企業とのデータ連携を容易に実現します。

ユースケース②　複数の荷主企業による容易な共同配送の実現

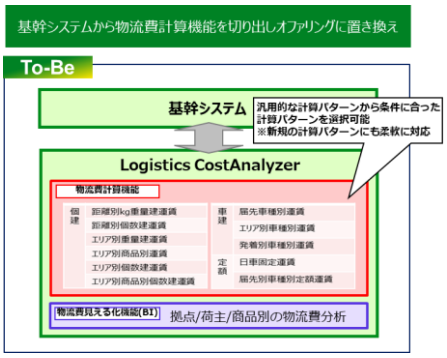


企業ごとで異なる輸送依頼データレイアウトをLogistics Global Linkが標準レイアウトに変換します。
共同配送を委託する物流事業者にデータ連携することで、共同配送が容易に実現可能となります。

Logistics CostAnalyzer

支払物流費・請求金額の自動計算と、BIツール連携によるデータの見える化を行うことで、物流業務改革・改善をご支援するクラウドサービス

ユースケース　大手機械系メーカーの物流子会社様



物流費計算機能の限定性とシステム保守運用負荷が課題だったが、Logistics CostAnalyzer導入により、システム改修リスクと保守運用工数を削減。標準パターン組み合わせによる設定効率化、UIの分かりやすさ、専門パートナーへの委託により、業務効率化と属人化脱却、本業集中を実現。コスト削減と業務効率化に貢献。

カタログ

Logistics Global Link　Logistics CostAnalyzer

お問い合わせ先

富士通株式会社

クロスインダストリーソリューション事業本部 DynamicSC事業部

お問い合わせフォーム

Unified Logisticページはこちら

© 2025 Fujitsu Limited